

桑野小学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①「ユニバーサルデザインの視点を活かした分かりやすい授業の構築」
- ②「すべての学習活動における各学年の発達段階に応じた言語活動の充実」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 兼任 圭子	委員 校長 長瀬 博 教頭 藤原 伸 教務主任 佐藤 伸 特別支援教育コーディネーター 中妻 真裕 森 郁子
------------------	---

校長

中妻 真裕 印

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 与えられた学習課題にはまじめに取り組むことができ、漢字の読み書きや基本的な計算については、70～80%程度の定着が見られる。	①基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ②理解・使用できる語彙を増やし、内容や要旨をとらえながら読んだり、目的や意図に応じて書いたりできる。	①各学級の80%以上の児童が、単元テストにおいて、正答率を80%以上にする。 ②大事なことを的確に聞く、読む、考えたことや伝えたいことを的確に話す、書くことができる児童を各学級で90%以上にする。	視写学習により、語彙力が増え、書くことに対する抵抗も少なくなってきたので、今後も全学年で積極的に進めていく。不明な点や疑問点への追求する意欲が向上するように、指導の改善を図る。	○ユニバーサルデザインの視点を活かし、効果的な指示・情報伝達の視覚化や焦点化を意識して授業に取り組んだ。 ○朝の活動で視写学習の取り組みにより、表現力への基礎的・基本的な知識・技能の定着を図った。	○各学年とも落ち着いた学習態度で、基礎的・基本的な知識や技能の定着・向上の成果が見られつつある。 ○各学年の発達段階に応じた教材を活用した視写学習により、書くことへの抵抗感が少なくなり、正しい助詞・漢字を使って文章を書く力が身につけてきた。
課題 学習の積み重ねが難しく、知識・技能の定着が困難な児童がどの学年にもいる。語彙数が少なく問題を読み取る力や文章を書く力が弱い。	①授業において、ユニバーサルデザインの視点を活かした指示・発問の出し方や活動方法、板書の工夫を図る。 ②子どもの実態に即した課題解決的な学習を取り入れた単元を開発し、目的や意図に応じて必要な情報をとらえながら読む活動を充実させる。	①目標と活動、発問、子どもの言語活動に整合性があるかに焦点を絞り、研修をすすめる、改善点を明確にする。 ②各学年の発達段階に応じた教材を活用して、視写の学習を全学年毎日実施する。		評価 B	次年度における改善事項 ○子どもの実態に即した課題解決的な学習・探究学習を取り入れた単元を開発し、目的や意図に応じて必要な情報をとらえながら読んだり・書いたりできる活動を充実させる。 ○各学年の発達段階に応じた教材を活用した視写学習を継続し、より多くの優れた文章に触れることにより、語彙を増やし、自分の考えや思いが相手に伝わる表現力を養う。

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 学級の中だけでなく、全校朝会や様々な集会等においても、自分の考えを最後まではっきりと伝えることができる児童が多い。	各教科、学級活動、総合的な学習の時間において、目的に応じた必要な情報を収集・整理・分析して、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを豊かに表現することができる。	「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが得意」と答える児童の割合を80%以上にする。	自分の考えを理由つけて発表できる児童が増えているが、発表だけで終わらず、意見の交流ができるような場面を設定し、授業の中でより深い意見交換ができるような学習活動を意図的に行う。	○学習課題を毎回表示し、自分の考えや意見を発表する際に、その根拠や理由を明確にして、話したり書いたりするよう指導した。 ○ホワイトボードやタブレット端末を活用したペア学習・小集団学習を積極的に取り入れ、話し合う場や調べ学習の活動を設定した。	○課題解決的な学習・探究学習への児童の取組が意欲的に行われた。 ○意見を述べたり、学習のまとめの発表をしたりする際、理由や根拠を明らかにしながら自分の考えを話すことができつつある。また、表現力もついてきている。
課題 自分の考えの基となる情報を収集したり、整理・分析したりする力が弱い。自分の考えの根拠や理由を明確にして、筋道を立てて文章で表現することに課題がある。	①課題解決的な学習・探究学習を積極的に取り入れる。 ②すべての学習活動の中に、ホワイトボードやタブレット端末を活用したペア学習・小集団学習を積極的に取り入れ、「聴く・読む・書く・話す」活動を充実させる。	育てたい力を明確にして、生活科・総合的な学習・生活単元学習の体験・交流学习を中心に各教科・領域の教育内容の関連を明確にし、各教科等の知識・技能が積極的に活用されるカリキュラムデザインを作成し実践する。		評価 B	次年度における改善事項 ○体験的な活動を大切にした課題解決的な学習・探求的な学習の単元を開発し、目的意識を持ち続けて取り組むことができるようにする。 ○理由や根拠を明らかにしながら自分の考えを話すだけでなく、より論理的に表現する力を育成する学習活動を展開する。多くの児童が自分の意見や考えを発表できる場の設定をする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 与えられた学習課題や家庭学習にまじめに取り組む、ほぼ100%の児童が課題の提出ができています。	①自分のよさを認識し、夢や希望をもち、工夫して日々の授業や家庭学習に積極的に取り組むことができる。 ②学校や家庭で、進んで読書をする習慣が身に付いている。	①2ヶ月に1回の「家庭学習の手引き」に示されている家庭学習のテーマの達成率が90%以上にする。 ②学校図書館からの図書貸出数が年間30冊以上の児童が全体の80%以上にする。	家庭学習への取り組みを頑張っている児童を賞賛し、他の児童へ広めていこう、今後も進めていく。家庭での読書習慣を身につけさせるために、週末読書を全学年で取り組むようにする。	○「家庭学習の手引き」を配付し、様々なテーマを提示し、子どもの自己理解及び学校・家庭の児童理解を進めた。また、自主学習などに進んで取り組むモデルを紹介し意欲を高めた。 ○図書委員と図書館サポーターによるお話を開催したり、週末読書を積極的に推進した。	○学習課題を明確にすることで、何をすべきが分かり、主体的に取り組む児童が増えた。また、家庭学習も学年の発達段階に応じたためやすの時間取り組めるようになってきている。 ○読書への興味関心は高まってきているが、家庭での読書習慣がまだ十分定着しているとはいえない。
課題 自ら課題を見つけて自主的に学習に取り組むことが苦手である。読書の習慣が十分身に付いていない。	①授業において、児童が主体的に課題解決・探究することができる場を設定する。 ②毎月「家庭学習の手引き」を配付し、家庭学習として取り組むテーマを提示・指導し、家庭での望ましい時間の過ごし方の習慣化を図るとともに、学校・家庭両者での子ども理解の手立てとする。	①がんばって授業に参加しているという児童の割合を90%以上にする。 ②2ヶ月に1回、家庭学習のテーマを提示・指導する。 ③毎月1回「家庭読書の日」を設ける。		評価 B	次年度における改善事項 ○学習課題を明確に掲示し、児童が学習の見通しをもてるように工夫をする。学習の振りかえりを大切に、次時の学習に活かすようにする。 ○読書タイムを活用して、読書への興味・関心をもたせる。また、家庭での読書習慣が十分でないので、週末読書の習慣化を図る。

平成30年度 学力向上ロードマップ

